

2006 第 2 回サポーターミーティング 議事録

日時：2006 年 5 月 21 日（日） 10：00～

場所：神戸ウイングスタジアム研修室

【出席者】

株式会社クリムゾンフットボールクラブ 代表取締役社長兼 GM 安達貞至

株式会社クリムゾンフットボールクラブ 専務取締役 叶屋宏一

株式会社クリムゾンフットボールクラブ GM補佐 佐藤英男

ヴィッセル神戸サポーターの皆様 約 100 名

【議事内容】

時間 10：00

弊社代表取締役社長兼 GM 安達貞至より挨拶

春らしいお天気の中、今日はお集まりいただきありがとうございます。

ちょうど 5 月 16 日が、私が神戸に来て丸一年となりました。5 月 4 日の浦和戦の後、三木谷社長から（GM 就任の）要請を受けたのです。このときから、（社長が）東京に居ながら、「社長」をしているのはおかしい、地域に密着したクラブ作りのためには地元神戸に居る人が相応しいと思っている旨の話を受けていました。

今年の 1 月 20 日、ちょうど豊満選手の入団に際して、鹿児島実業高校でパーティーがあり、鹿児島空港からバスで会場に向っている最中に「社長をしてくれ」という話を受けました。私は、「ヴィッセルに社長になりに来たわけではなく、チームを建て直しに来たのです」と言いましたが、「ノーチョイスだ」と。

4 月 10 日まで発表がずれこんだのは、私が発表を遅らせたわけで、実は 1 月 23 日にライブドアの堀江さんが逮捕されまして、とかく三木谷社長（現会長）と比較対照されるものですから、「社長交代」というとマスコミはすぐ「サッカーから撤退したいのでは」という書き方をされると良くない、ということでしばらく発表を差し控えていました。

発表の際、Jリーグにも社長交代の件をチェアマンに報告に行ったところ、記者がすぐかぎつけてきまして、15 名ほど記者が現れました。

J の広報にうまくさばいていただいて、三木谷社長（現会長）と別々に出たのですが、「サッカーから撤退するのですか？」という質問がやはり出ました。

「何を言ってるんだ、代表権を持った会長ですよ」と（言いました）。

1 月 24 日に、三木谷社長（現会長）とサッカー協会の川淵キャプテンのところに挨拶に訪れたのですが、「J2 に落ちたら三木谷さんはサッカーから手を引くんじゃないかと心配して

いた」と言われました。

しかし、三木谷社長（現会長）は世界クラブ選手権にクラブが出場出来るようになるまでやりますと答えてくれていましたし、川淵さんも、「三木谷さんは新しい感覚を持ち、風を入れてくれる人だ」と言ってくれています。

また近々ともに夕食をとる予定にしています。

三木谷社長は社長を退いて会長になるわけですが、クラブから一步退くというわけではなく、地元生根ざしたクラブを作るためにということ。大局的なポジションから引くということなのです。

あと、先に紹介しておきますが、ここに座っている佐藤くんの紹介をさせていただきます。彼とは20数年前からの知り合いで、読売サッカークラブの時代から読売で仕事をし、それからヴェルディとなり、人気も実力もJでナンバー1のクラブになっていった、そのときにいろんな仕掛けをしてきた男です。

その後、生まれ故郷である埼玉に戻り、浦和レッズの盛り上げに一役かいました。

外国人選手の獲得について、彼は4ヶ国語話せますし、フランス語とドイツ語は読めますのでかなりの力になると思っています。

また、その語学は読売SCに入ってから勉強したということで、見かけはこんな感じですが、頭は非常にシャープで、一人で海外へ行き、相手とねばっこく交渉し、安く取ってくるということが出来る、一番大きな力になると思っています。

また、クラブの後援会組織、サポーターとのいろんな盛り上げについても色々やってくれと思っています。

我々は2年前に発足しました素人集団です。

特にスポーツビジネスというものは難しく、素人の集まりで一生懸命やっても限界があります。

彼はうまくいったクラブ、しかも2つものクラブで経験しています。

佐藤くんが来てくれたことを本当に力強く思っています。

また、追々彼自身の経験や思いをまた改めて語ってくれると思います。

【クラブ強化方針について質疑応答】

(回答者：弊社代表取締役社長兼 GM 安達貞至)

・・・質問

・・・回答

第一クール、テレビ、現地ですべて拝見したのですが、気持ちで負けている部分が多いのではと思います。スポンサーに LM というところがついていたと思いますが、メンタルトレーニングはどのような風に行っているのですか？

確におっしゃるとおり。

メンタル面につきます。私の持論ですが、今年、チームをスタートするとき、チームを変えるためには 3 分の 2 の選手を変えることが必要だと言いました。昨年まで、ヴィッセルは J1 の下位に低迷し、負ける事に慣れてしまっていました。負けることに恐怖をもったクラブだったのです。そういった、精神的な面を一掃するためには選手を入れかえなければなりません。それは予算面や、うまく望む選手が取れなかったりとで、まだ 4 割程度しか変えられていません。

そして、(チームを変えるには) この選手がどれだけチームの中で影響力があるのかを判断しなければなりません。影響力のある選手を出さないといけませんが、これにより戦力的にダウンすることもあります。

最初の草津戦 (開幕戦) 攻めながら点がとれない。ここで焦ってしまったのは、技術的な面ではなく、これまで通りやれば良いのに出来ない精神的な問題。選手たちに自信を持たせることが大切と考えています。バクスター監督もこの面について一生懸命取り組んでいます。チェルシーやバルセロナなど海外のトップリーグの試合を見せて、こうやっているんだよ、と自分たちのプレーとを対比させながら話しています。また、VTR で前の試合との対比を行って、選手に成長していることを話し、自信を持たせています。勝った試合で叱る場合もありますし、逆に負けた試合でも励まして自信を持たせることもあります。

バクスター監督が始めて指揮をとった 1995 年の戦績は、前期 5 勝 10 敗、後期 13 勝 2 敗でした。約束事を作っていくバクスターサッカーは、頭で覚えて体で表すことが出来るようになるまで我慢が必要です。そして、我々は選手を信じてしっかりとサポートをしていきます。

試合とか、いぶきでの練習を見ている感じでは、全体的におとなしい選手が多いイメージがあります。チームの方針に従い、まじめなので、チームづくりの上では良いかもしれないが、「馴れ合い」、例えば FW から「なんでパス出さないんだ」という要求する選手が居ないような気がします。

周囲に自分の考えを話し、要求する選手が少ないことについて、(これから補強する上で) どう考えてらっしゃるんでしょうか？

ご指摘の通り約束事を忠実に守ることと、個性が強い、ということはまた違います。たまたまそういう人間ばかりを集めたわけではないのだが、自分の考えをあまり表にださず、味方のミスを「いいよ、いいよ」といってしまう。

ここに強化の上では問題意識を持っており、自己主張ができ、リーダーシップがとれる選手をとりたいたいと思っています。

メキシコ五輪のときに日本が3位になり、釜本くんが活躍した。このときに元 JFA 会長の長沼さんが監督で岡野さんがコーチ。ともに 38 歳と 37 歳という若い指導者であり、これは日本中が驚き、沸きかえったのだが、選手がハーフタイムにロッカールームで主張しあっていたそうです。「なんでボール出さないんだ」「なんであのボールに反応できないんだ」と。しばらくはスタッフ陣も放っておき、その後、作戦を練ったそうです。本当に個性派集団でした。その中で彼らは自分たちの味方を激励し、ときには罵りながら勝ち上がった、素晴らしい集団だった、と。

サッカーはそうあるべき。一人一人がその場で判断しなければならない。野球とは違う。それだけに、個性というものが重要。これはうちのチームだけではなく、他のチームでも同じようです。

なぜ日本は点が取れない？とよく言われています。学校教育がよくない。なぜなら、「ガキ大将」を否定してきました。戦争が終わり、「ガキ大将」を否定し、「競争」「順位付け」を否定しています。学校の運動会で順位をつけることを、ある頃からなくしてしまった。そこが一番の要因だと私は確信している。

ストライカーなんて、そういう要素が絶対必要だと思っているし、釜本くんなんて、彼がワガママだったからこそ、あそこまでになったと思っているし、かつてよく永島(昭浩)くんと言っていたのが、「お前は人のことを考えすぎる」と。

そこが永島くんと釜本くんの差。もしかすると永島くんの方が技術的には優れていたのかもしれないが、精神的なところで負けていたのかもしれない。

いま日本の選手は個性がなくなってきました。ヴィッセルの選手も同様です。

この前、高校生が練習にやってきたとき、練習内容について、コーチ陣と言い合いになったそうです。私はそれはいいことだと思いました。

ウチもそういう人間性、ハートをもった選手をとろうじゃないか、と。

バクスター監督は、特に外国人選手をとるときにはビデオだけではなく、人間性を非

常に重視しています。その辺りがチームを強くしていく大きな要因。クラブ全体としてもそのことには非常に問題意識をもっているのです、しばらく時間をください。よろしくをお願いします。

外国人選手について質問。

今年の外国人選手の獲得はうまくいっていないと思います。ホルヴィ選手は怪我がち、トーマ選手は日本のプレースタイルに慣れていない。今後の方針をお聞かせ願いたい。ご指摘通り。

失敗の大きな要因として、ストライカーをシーズン当初にとることができなかった。今だから言うが、最初ポーランド代表選手をとろうと色々チェックしていた。その間に入っていた代理人が、最初言っていた移籍金、代理人手数料を間際になって4倍に跳ね上げてきた。それにバクスターも非常に怒り、急きょ取りやめたのです。

そこまでに非常に時間がかかってしまった。

次に、ウルグアイ代表選手の獲得が決まったのだが、今いるクラブがもう1試合だけ試合に出てくれというので、1週間だけ待ってくれ、と。

今のクラブとの関係も大事だと、それは了承しました。そしたらまた「次も1週間」と。

次はルーマニア代表の選手を、と当たっていたのだが、この選手については我々のチャンネルのなかで、人間性が分からなかった。調べてみると、人間的に良くない、ということが分かってきたのです。クラブでも色々と問題を起しているらしい、と。そうこうしているうちに日本での外国人選手の期限が来てしまいました。丁度その頃に、パロン選手がまだ決まっていないということを聞いたのです。

日本国内での移籍はその期限は問題ないので、彼に来てもらい、練習を見たのですが、あの年になって1ヶ月半もプレーしていなかったこともあって、なかなかコンディションが上がらない。

でも外国人枠もあいているので、かなりの安い金額で、半年契約ということをとったのですが、今のところあまり良い結果がでていない。

彼が入ることによって、パスでまわすサッカーが、ロビングばかりのサッカーになってしまう。練習では出来ていることが、試合では出来なくなってしまうのです。

バクスター監督も、この点は選手たちに伝えていきます。

先日、元日産の選手で、ブラジル代表の主将を3回務め、京都では監督も務めたオスカー氏が、現在代理人をやっており、うちのクラブハウスを訪れてくれました。彼にはやはり選手を「見る」力があり、選手たちからも尊敬されています。トーマ選手に、オスカー氏が来るということをお話したところ、トーマ選手は「握手だけでもさせてほしい」と言うほどでした。

練習前、オスカー氏にトーマ選手を会わせたところ、非常に丁寧に挨拶をしていたと

聞いています。現在はオスカー氏にも協力を仰いでいます。

選手補強は佐藤くんが様々なチャンネルを使い、7月4日から移籍ウインドウが開きますので、いろいろとやりたいと思っています。

ホルヴィ選手については、残念なのですが、色々トラブルがでています。

幸いなことに昨日、一昨日は練習にも参加し、休みの日も出てきてトレーニングを積んでいます。

また、これはマスコミにもまだ発表していないのだが、一昨日の夜にナイジェリアから一人選手が来ました。彼は練習生として1ヶ月以内に契約するかどうかの結論を出すという条件で、練習をさせる予定です。

名前は控えさせていただきますが、ポジションは左利きのMF。18歳です。

また、そのお兄さんというのは代表選手として活躍したほどの選手です。

トーマ選手についての感想は？

満足しています。

イングランドのプレミアリーグでは、ああいったハードタックル、ボディコンタクトは普通のプレーですが、日本ではファールをとられやすいプレーです。

Jリーグの歴史の中でも、(レフェリングに)嫌気がさして自国に帰ってしまった外国籍選手もいます。日本のサッカーが世界と戦っていくためには、こうした点も見直さなければならぬと思っています。

トーマ選手はラテン系ですが、冷静な面も持ち合わせています。

今はトーマ選手自身も戸惑っている部分もあると思います。しかし、彼は、試合中に他の選手を叱咤激励するなど、いいリーダーシップを持っていると満足している部分もあります。

今年J1に上げられることを信じて応援していますが、J1に上がることを目的にしたチーム作りで、今年上がったとしても来年エレベータ式にまたJ2に戻ってしまうことは本望ではありません。

今のヴィッセル神戸にはユース、U-21も含め、中盤をしっかり出来る選手が少ないと思います。各大学で活躍する選手や、クリエイティブな選手の獲得、またどうやって発掘育成していくのか。長い目で見たときにヴィッセルがJ1でやっていくためにはどのように考えていますか？

ストライカーもそうですが、今のヴィッセルで一番問題なのは中盤。

チーム作りというものは、「J1にあがるだけ」というのであれば簡単です。

でも私はバクスター監督と話をし、中・長期的なチームを作ろうとしています。確かに攻撃はカウンターで、外国人選手を前に、というやり方であればJ2では勝てると思います。

しかし、もしそれで J1 に上がっても、結局は下位に低迷してしまうでしょう。
今、チーム作りは途中の段階です。しかし途中だからといって負けていいのか、という
とそうではありません。

バクスター監督の素晴らしいところは、どんな状況でもチームコンセプトを絶対に崩
さないし、こうだという確信を持ったならそれをしっかりとやるところです。

そこを見込んで呼んだのです。

選手の発掘については、ユースのスカウトに、目線をもう少し高いレベルにあげろ、
とも話しました。

中学生を見るときも、「兵庫県でいいから」ではダメだ、と。

全国レベルでどうなのかをしっかりと見なさい、と。

そうでなければ5年後、10年後に、しっかりと戦えるクラブにはなれない。

高校生をとるにしても、同じことです。

5人取ろうと思っていたのが、2人になってもいいじゃないか、と。

そうでないと J1 に上がってから苦しいのは見えています。

怪我人の復帰情報について。

また、SC 鳥取との連携はどのようになっていますか？

遠藤選手は、手術が終わり、リハビリも終え、4日前に戻ってきました。

そろそろ練習も始めます。彼は当初手術をするかしないかで非常に悩み、一旦はしな
いという選択をしそうだったのですが、私とバクスター監督はするように言いました。
第三クールから出られるような気持ちで思い切って（手術を）やってみろ、と。チー
ムが疲れ、カードも出て、選手の選択が難しくなる時期に帰ってきてくれれば、と思
っていました。

彼にはくれぐれも慌てるな、と言ってあります。

ホルヴィ選手は先ほど申し上げました通りです。

GK の本田選手はもう少しかかりそうです。

4、5年先を期待している FW の土井選手ですが、こちらも慌てないで、時間をかけて
治してもらおうと思っています。今は少しずつボールを蹴れるようになっている。あ
の高さと速さを持っていることは期待できる。

（SC 鳥取について）

実はこの前 GW に木下君（監督、元ヴィッセル）がうちの選手をチェックし、こちら
からもこういう選手だったら経験のために SC 鳥取に出すことはできるよという話し
はしてあります。試合に出ることは非常に大切で、うちでトップの試合に出場する機
会がない選手は、一度神戸から離して行かせようかと。

まだ向こうからうちに来てほしいという選手のオファーは来て居りません。

弊社 GM 補佐 佐藤よりの挨拶

微力かもしれませんが、この5月より GM アシスタントとして就任しました。

社長の安達さんからもお話がありましたが、私と安達さんは価値観がよく似ており、そして、サッカー人としての価値観はほとんどずれていないというのが見解。

皆さんもいろいろ不満、願望だとかあると思います。

でもそれは世界中どこもかしこもみな同じ。バルセロナだろうが、ヴィッセルだろうが、ヴェルディだろうがレッズだろうが。

「もどかしさ」があるのかな、と。

私は国外に延べ10年以上滞在してきましたが、その中で感じたことを例え話でお話しさせていただきます。

車の四輪に例えると、タイヤが一つでも磨耗したりはずれると走れない。

まずはクラブのフロントが一つのタイヤ。次は現場スタッフと選手。三つ目はお金がなければならぬのでスポンサー。四つ目はサポーター、ファン。

この人たちがいなければ絶対チームも強くないし、イングランドのチーム・レディングで、スティーブ・コッペルというのが監督になり、クラブが出来て135年で上がった。海外では100年かかってもタイトルが取れないチームもある。

4つのタイヤがきちり揃い、バランスがとれていること。

ハンドルを取るのが社長だし、ナビゲーターが監督。

今回、勝手な価値観だけど、ヴィッセルを見る目がまた変わるのでは。

カウンターアタックだけのチームは、長く続くサッカーではないし、魅力のあるチームにならないとまた「もどかしさ」が生まれるのではないのでしょうか。

「組織」を作り上げるには時間がかかるもの。

世界で一番すごいサポーターはバルセロナ。ソシオという制度があるけれど、ソシオはクラブの会員だけで、キャンプノウで試合を見ることもできない人もいる。

ソシオを利用してスポーツを楽しんでいるだけ。ソシオだから特権があるというような短絡的な考えの人は一人もいない。

浦和レッズはJが始まったとき、強烈な人たち（サポーター）がたくさんいました。海外ではそんな人がたくさんいたけれど。ある時スタジアムでスタンドからコインが投げつけられたときに福田（正博）選手と「コインじゃなくてお札投げてくれないかな」と言ったり、女性スタッフが事務所に通うのが怖いと話していたこともありました。

そんなサポーターが今では結婚して子供を持ち、ルールを守るようになって。

今のレッズのサポーターは日本でナンバーワンになったと思う。相手選手にはブーイングで。それはチームへの愛情からで。

サポーターの人たちがレッズを応援するためには満員にしよう、と。

埼玉スタジアムは5万以上でというノルマでやっていて、それはサポーターが自分たちも

タイヤの一つなんだ、という意識で。

また、分析しても良いし、勝ったときには友達とビールを飲んだり。とにかく楽しんでいる。

神戸はサッカー発祥の地らしく、これまでは浦和がサッカーの発祥だと思っていたけれど、港がなければサッカーは入ってこない、ということで、神戸がサッカー発祥だということにしました。(笑)

皆さんは車輪の一つ。

今はもどかしさを持っていると思うが、皆さんと一緒にやっていけたらと思っているし、それに見返りを出せるようにやっていきたいと思っているのでよろしくお願いします。

【クラブ経営について質疑応答】

(回答者：弊社専務取締役 叶屋宏一)

～はじめに～

クラブではJ1復帰という短期的な目標と、安定してJ1で戦えるクラブ作りという中・長期的な目標を掲げています。

次に組織の体制ですが、現場サイドのスタッフ(監督・コーチ・選手含む)は、2003年が61人だったのに対し、今年91人になりました。一方、フロントサイドのスタッフは2003年が25人だったのに対し、今年も25人。人数は変わっていません。また、今回フロントから現場に人を移しましたが、フロント内の人事異動で1.5倍の仕事をやろうということで人数を変えていません。この人数でスポンサーやチケット、グッズ等でクラブの収入を獲得しています。

このビジネスの難しいところは、最初に一定のコストが決まってしまっているところにあります。最初のコスト=借金を返すために、何とか予算(売上目標)を追いかけていくという状態になります。その売上げをたてるために何をやるのか、それともそれが難しいのならどのコストを下げるのかと日々考えていますが、予算の配分が非常に難しいのが現状です。

観客動員についてですが、アルビレックス新潟では無料券を配ってうまく動員されました。集客によるメリットがあると思いますが、無料券の配布につきましてクラブの考え方を教えてください。

今シーズンになって観客が少なくなりました。去年は、市民デーとか区民デーとか色々の方策を立てていましたが、今シーズンはお客さんを増やす方法を何か考えていますか？

(上記2つの質問への回答)

無料招待については非常に悩んでいます。無料招待が増えると、不公平が起こると思

うんですよね。今シーズンは、有料で見に来ていただくお客さんをとにかく大事にしよう、というスタンスでスタートしました。

もうひとつは、無料招待を行っても反応が良くないんですよね。一枚 5 円から 7 円のチケットを発券するだけでもお金がかかり、ハガキを回収したり、仕分けしたり、たくさん労力をかけて、15,000 人くらいの集客が出来れば効果があるのかも知れないけれど、そこまではいかない。お金を払っているお客さんとの兼ね合いもありますし。しかし一方で、スポンサーはお客さんが入っていないと難しく、うちは全試合にスポンサーの冠をつけていますので、バランスを見ながら集客（無料招待）も行っていきます。

市民応援デーとか、区民応援デーは定期的に行っていこうと思っています。

区ごとに応募がどれだけあって、着券がどれだけあったかという数字は全て管理しています。また、来場された方のデータをもとに割引券を送ったりということもやっています。この地域で何パーセントとかという数字化をしているので、（市民応援デーや区民応援デーについては）長期的にみていきたいと思っています。

コンサドーレ札幌は日本ハムとの共通チケットを出していますが、ヴィッセル神戸ではオリックスバファローズとの連携は考えていますか？

オリックスの村山常務とは頻りに会って話をしていますが、オリックスさんは大阪に移るであろうということも分かっているし、労を多くするのもどうかな、と思っています。楽天は野球ももっていますし。（笑）

ホームゲームの何試合かをセットにした観戦チケット（回数券）等の販売は考えていますか？

3 試合、5 試合パックとか回数券のことですよね。

J1 の時は、人気カードに集中して席が足りなくなるリスクがあんですよね。去年のガンバ戦だったり、今年で言えば今度の 6 月 24 日の横浜戦もそうなんですけど。今年に関しては、検討しなければならないのかなと思っています。

オリックスさんは、40 枚綴りのいつでも使えるチケット（回数券）を発行しているようですが、やめることも検討しているそうです。

モバイルファンクラブについて、去年はピンバッジのプレゼント等がありましたが、今後のモバイルファンクラブのサービス内容についてどのように予定されていますか？

モバイルファンクラブの景品には、コストをあまりかけられなくて、毎月やっているスポンサーからのプレゼントや来場者サービスなどで対応しようと思っています。今後はさらに内容を充実させていきたいと考えています。

ウイングスタジアムとユニバー競技場の使用料の違いはどの程度ありますか？選手の年俵に影響がないようクラブの支出については抑えるところは抑えてほしい。ホームゲームの開催を使用料の安いユニバー競技場を使用することもいたしかたないと思っています。J1に復帰したら、またウイングスタジアムで開催すれば良いと思います。

ウイングスタジアムとユニバー競技場の使用料の違いについてですが、もちろん、ウイングスタジアムのほうが高いです。多分ね・・・、倍くらい。コストを抑えているので実際は1.5倍かな。ですからJ2としては（ウイングスタジアムは）もったいないかもしれません。使用料については、ウイングさんとも話しをしまして、少し下げてくださいましたが、ウイングスタジアムでの開催は警備コストがかなりかかるんですよ。席種も多いし、自由席をもって指定に入ろうとする人や、いろんな方がいらっしゃるので、ある程度の警備の数が必要になります。

例えば、入場料収入が700万で、コストが500万、勝利して勝利給を払うと、一試合やって「チャラ」みたいなことにもね。（笑）

でも今年、ユニバー競技場で国体があったり、またウイングスタジアムの芝もよくなったので、今シーズンはウイングスタジアムで開催しようということになりました。

また、ユニバー競技場と比べるとウイングスタジアムの方がお客さんにとって見やすいですし、ヴィッセルのメインのスタジアムとして位置づけていくためには、ここ（ウイングスタジアム）で試合をやっていこうと思っています。

経営には色々な方法があると思いますが、クラブには販売促進やキャンペーン等の手段よりも、地域貢献等のブランディングに重点を置いた経営を目指してほしいと思います。地域貢献とブランディングについてクラブの考え方を教えてください。

目先のことも大事で、120人を食わしていかなきゃいけないから、短期的な売上はあげていかなければいけない。一方で地域の公共財というところで、中・長期的に地域貢献活動に取り組むことも重要と考えています。学校訪問だったり、ヴィッセルカレッジといったものもやっていますし、その中で学生たちがサッカー以外のスポーツを（バドミントン、ビーチサッカー）やっていこうとしています。目先のことを僕も考えがちだったのですが、そういう表にすぐ出ないこともやっていかなければならないと切実に感じています。

また、街の活性化を行っていきましょうと、長田や三宮等、商店街との取り組みも行っていきます。

ブランディングについても、これも地域貢献につながっていくと思うんですが、ヴィッセルが神戸に存在しなければならないという意味で、サッカー以外のことでプロのクラブとして汗をかけることも大事だと思っています。

そこに住んでいるいろんな人たちのために一つずつ実践しなければならないですね。

今シーズン、大口のスポンサーは減りましたが、一方で何社か新しいスポンサーが増えていると思います。兵庫県内の大手企業でまだJリーグのチームのスポンサーをしていないところもありますが、スポンサー営業の状況について教えてほしい。新規のスポンサーでは7社です。楽天に店舗を出店している企業さんだとか、個人的な友達の企業さんだとか言うところが多いですね。しかし目標には2000万円くらい足りなくて、まだまだです。

クラブ経営の収入源は、シーズンチケットやスポンサー収入だと思いますが、営業する際に企業が一番魅力を感じる点は何でしょうか？集客でしょうか？

スポンサーということに色々なとらえ方があります。売り上げが上がらなくちゃ、と思っているところもあるし、別の観点もあります。野球はテレビの露出換算なんですけど、うち（ヴィッセル神戸）はスポンサーでメリット（売上）をとろうとしても難しい。地域で活動しているクラブを応援してくれる、一緒に戦い、一緒に喜んでくれるところじゃないと無理ですよ。そして、これからの「ウリ」はサポーター、観客動員の数がそういったスポンサーの数を増やしていくことにつながると思います。浦和があればスポンサーがとれているのは、5万人もの人たちとつながっているということ。企業にとって5万人のサポーターとのつながりが魅力的なのだと思います。大手になればなるほど、マーケティングメリットを求めるので、現状としてはなかなか難しいですね。

ミサキガーデンに椅子や立食用のテーブルを増設してもらえないでしょうか。費用がかからない方法で検討しましょう。

メディア対応について、サンテレビでの試合放映等は考えていますか？

また、試合ごとにポスターや広告を出していると思いますが、目にする機会がありません。露出に関しての取り組みをどのように考えていますか？

今度の横浜戦は、ポスターにカズ選手や城選手との対決感を煽るものにしてほしい。

現状ではサンテレビでの放映は難しいですね。放映するには費用がかかり、サンテレビにもお金が入らないと出来ないということで。クラブとしては放映に費用をかけることは出来ません。またサンテレビにスポンサーが付いて、番組をやってくれる企業があれば、今の状況から考えたら、そのお金でクラブのスポンサーになってほしいと思います。今シーズン、メディアの全体的な露出は減りましたが、神戸新聞さんには積極的に露出をしてもらっています。また他のメディアにも、スタジアムがこれだけ素晴らしいので、ぜひここ（ウイングスタジアム）に来てほしいと思っています。

地元密着の媒体、特に紙媒体とは出来るところからやっています。神戸ウォーカーで

も連載を今年から始めています。

ポスターの掲出については、車内吊り用のポスターを余分に作っているのので、協力していただいている商店街や応援店には出来る範囲でお届けしています。サポーターの皆さんにもご協力していただければなと思っています。

今度の横浜戦は、何としてでもたくさんお客さんを入れたいと思っています。J1の時は対戦カードをみて来ている人が多かったのですが、今年一番の対戦カードですので、力を入れて頑張ります。

コンビニ等での指定席チケットの購入時に座席番号の指定が出来ませんが、今シーズンはバックスタンドの指定席がガラガラで一番端になったりすることもあり、怖くて買えません。購入時に座席の指定が出来るような工夫を考えてほしい。

指定席の座席位置が選べないのは、サービスとして良くないですね。何とかしたいと思っています。実店舗が三宮にあれば一番良いんですけどね。

スーパーツアーパックの開催の数が今年減っていると思います。私の知り合いは、スーパーツアーパックについて結構良かったと言っています。開催回数を減らした理由を教えてください。

スーパーツアーパックの横浜戦は完売になりましたが、その他は対戦相手にもより販売が難しい、そういう状況です。今年はこれまで2回実施しています。皆さんに喜んで楽しんでいただいているので、出来る限り皆さんの声を反映させたいなと思っています。

J2の中で、動員数では札幌、仙台はJ1レベル、ヴィッセル神戸はJ2で中間の動員数です。メディアの露出の減少やJ2だからというのもあると思いますが、今シーズンはホームゲームのイベントを見ると、以前のようなタレントを呼ぶということもなくなったし、イベント性に欠けていると思います。ホームゲームでのイベントについてクラブの考え方を教えてください

また、場内外で設置している優先入場や施設案内など看板類の安全管理について、リスク面をどのように考えていますか？子供達が走り回ったりしていますので。

(2003年の)ホームゲームのイベントでタレントを呼んだことでマーケティング効果はあったと思います。クラブの名前を売るという意味では。今年は、サッカーの見方講座などをやっていますが、ヴィッセルやサッカーを知ってもらうためのイベントを今後もっとやっていきたいと思っています。例えば、試合の後にピッチでボールが蹴れたら楽しいんじゃないか、とか、佐藤さん(GM補佐)に場外で試合の見所などの解説をやってもらったり、選手が売店の店員になってみたり、色々考えていることはあります。派手なことよりも地道なホームゲームでのイベントをやっていきたいです

ね。よく他のクラブからリリースが来るのですけれど、常にチェックして、他のクラブが何をやっているのかはチェックして勉強しています。

それと安全管理については、試合運営のコストを抑える努力もしていますが、安全管理は徹底していきます。風が強い日などは特に危険もありますし。ご意見頂戴します。

地下鉄（山手線）の車内放送で一時期、試合前日の告知が行われていました。現在は放送されていませんが、地下鉄での車内放送についてどのように考えていますか？

（以前は実施していたということで）神戸市に確認してみます。

三木谷会長のクラブに対する思いや考えについて、メッセージをホームページか新聞で出してほしい。（回答：弊社代表取締役社長 安達）

（三木谷会長とは）試合の前後には電話で話しています。負けた試合のあと、電話するのは本当にプレッシャーがありまして、ときにはキツイ言葉も返ってくるし、メールのほうが楽なのですが、一方通行なので、極力電話で話しています。草津戦で負けた後も東京で電話して、すぐに楽天の本社にいきました。15分しかないといっていたのに、結局45分。話が終わって出てきたら2組もお客さんが待っていました。

（三木谷会長は）サッカーには、新しい風を取り入れようとしていることと、国際的なスポーツであることに魅力を感じているようです。

今のヴィッセルには7カ国の国から選手、スタッフが集まっています。いつの間にか国際的なクラブになっていました。矢田神戸市長からも「国際都市神戸にぴったりで良いですね。バルセロナと姉妹都市を結んでいますし、いつの日かバルセロナと試合ができませんかね？」と。会長の三木谷もこれには喜び、いつの日かやりましょう、という話もしていました。（三木谷会長は）残念ながら開幕戦と、先月の東京V戦しか神戸には観戦に訪れていませんが、このときも海外出張のあとで時差ぼけの中駆けつけてくれました。

とにかく忙しい人なのですが、感心していることは電話を入れると必ずコールバックしてくれること。そこでコミュニケーションをとることができます。

（三木谷会長は）企業人ですから中期長期の目標をしっかりたてていますし、私（安達）の考え方もしっかり話しています。

会長、バクスター監督、私（安達）の三人の考えが絶対ぶれないことが最重要だと思っています。

12:15 終了